ヴァーヘニンゲンは画像を保存し続けます

1983 年 6 月

芸術と自然は同じです

ヴァーヘニンゲン -

公園での美術展はまだ可能ですか？ Sonsbeek 93の作曲家である Valerie Smith は、最新のアーティストの態度を考えると、ほとんど言いません。 彼女は主に彼らと一緒にアーネムの街に行きました。 はい、ヴァーヘニンゲンで 6 回目の彫刻展を開催した Images on the Mountain Foundation は言います。 抑圧に対して、省はワーヘニンゲンの計画の邪魔をほとんど見なかったので。 したがって、他の資金源がプロジェクトの資金調達に使用されました。 財団は再び「博物館」ベルモンテを展示会場として選びました。 これは 1950 年代初頭に設立された樹木園であり、展示会はすぐに農業大学の 75 周年を祝います。

しかし今回は、組織財団は単に芸術作品を公園の装飾に配置する方法を選択していません。 これは、展覧会が与えられたタイトルからすでに明らかです：「Muséedes Beaux Arts、Musée des Beaux Arbres」。だからここにもコンセプトがあります。 芸術と自然は平等な立場に置かれ、参加した 17 人のアーティストの大多数は、これを素材の選択という点では環境に合った作品に翻訳しましたが、内容の点でもあちこちにあります。 だからたくさんの木。

伝 統

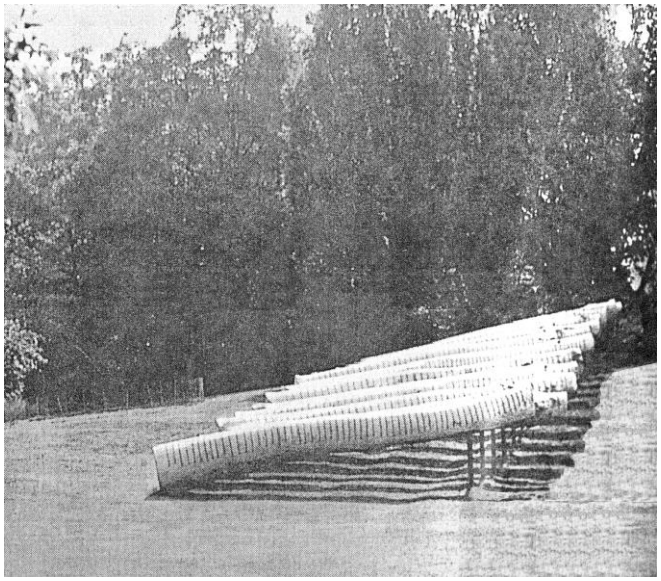
この根底にある考えにもかかわらず、6 回目の Images on the Mountain は、それでも伝統的な彫刻展になり、たとえば、前版のソンスベーク展と結びついています。一方、このようなものは、公園での展示が決して時代遅れのアイデアではなく、誰を招待するかによって異なります。 ヴァーヘニンゲンがアーネムの新進気鋭の若い警備員よりわずかに古い世代でそれを探しているのは驚くべきことです。Sonsbeek 86 に目立つ存在である Guiseppe Penone でさえ、今や再びヴァーヘニンゲンに現れています。 作品に天然素材と形を組み合わせたペノーネは、ヴァーヘニンゲンに置いた彫刻の枝の形に沿ってブロンズのストランドを作り、彫刻をスマの小道の脇に置きました。

彼は再び自然と文化の組み合わせで素晴らしいことを証明し、この展示会で最も多くの人です。彼は、切り株で切り株を巨大な鉄板で飾るだけの Balduin Romberg よりもはるかに巧妙に機能します。 日本の角永和夫の作品も、15 本の剥ぎ取られたポプラを一列に並べ、常に同じ距離で途中まで見たという特別な品質を持っています。これにより、さまざまな側面からエキサイティングな外観を提供し、気象条件によって変化するリズミカルな全体が作成されます。 同胞の土屋公雄は、人工の枯れた焼けた森のように、南北軸の地面に多数のねじれた H ビームを垂直に配置しました。 長い間木に取り組んできた Huisje Marinus Boezem は、木の名前が刻まれた、上から磨かれた切断された木の円盤のような 8 つの花崗岩の円盤を作りました。 その少し先に、茂みに隠され、雑木林の山の隣に、アンとパトリック・ポワリエ（梨の木、この展覧会の素敵な名前）が作った香りのよい巨大な木造の家が立っています。 いくつかのレンズを通して森の断片を見ることができるように、低いドアを通って這うことができます。 そして真ん中、ガラスの下に脳があります。 その形は、「夢と記憶の部屋」と名付けられた小屋の形に反映されています。 その頭脳の追加は家にいくぶん明白な意味を与えます、彼らはおそらく省略されたかもしれません。

ニルス・ウドの作品「青い花の谷」は印象的ですが、内容が不足しています。 彼は、山に囲まれた谷の形をした台座を使って、かなりの直径の丸い土地を育てました。「山を越えて」階段を経由して行くことができるその谷では、青い花が咲きます。 クレラー・ミュラー美術館のジャン・デュビュッフェによる、歩くこともできる大きな黒／白の「庭」を非常に彷彿とさせます。 樹木園がこの作品に恒久的な地位を与えることを決定した理由は謎であるか、ニルス・ウドの作品がより魅力的であるに違いありません。

イアン ハミルトン フィンレイ

ヴァーヘニンゲンで展示されている最も概念的な作品は、カッセルの最後から 2 番目のドクメンタでギロチンの印象的な列の後ろにいるイアンハミルトンフィンレイの作品です。 スコットランドで育った芸術家は、ワーゲニングセベルクがラインに向かって急降下した場所の近くの丘の上に、パリ近郊のヴァンセンヌへの道を示すシンプルな木製の看板を置きました。



角永和夫の「Wood no.8 AK」: 15 本の丸太。
（写真・Beelden op de Berg）